

尋常一様

Nothing Special

小木晴代

相談室ベターデイズ・SPLASH カウンセリングルーム


茨城県取手市インストラクター

h-ogi@s8.dion.ne.jp

魯山人の書いた随筆には、CLに通じる話が良く出てきます。「尋常一様」というタイトルの随想を紹介します。

ある日、友人の紹介で人が来た。客は、私をつかまえてさっそく質問を發した。「先生、料理の根本義についておきかせください」そこで、わたしは言下に答えた。「食うために作ることだ」(中略)「先生、なんのために食うのですか」「そりゃ生きるためにだ」「なんのために生きるのですか」「死ぬためにだ」(中略)

客は帰りぎわに。なにか書いてくれといった。玄関にかけるのだという。そこでわたしは、さっそく客のいう通りに、色紙をとりあげ、筆をもった。「玄関にかけるのですから」客は、念を押して頼んだ。そこでわたしは「玄関」と書いて渡した。「先生、玄関と書いてくださったのですか」「そうだ」客は、まだなにかいいたそうであったが、何も言わずに帰って行った。玄関であっても玄関でないような玄関もある。さっきの客も、入り口だか、便所だか、靴脱ぎだか、物置だかわからないような玄関をつくったのかもしれない。そうでなかったら、あんなこねまわした質問をするはずがない。さっきの客も、また、その客を訪ねていく客も、間違わぬようにと、わたしは親切に玄関と書いてあげた。

 [目次へ戻る](#)